

子どもの気持ちを楽しみ

ホスピタルアート作成中



動物の森をイメージしたアート

日赤和歌山医療センター(和歌山市吹上)本館8階の小児病棟が、ビニール製のシートを壁に貼って描いたイラストで、動物の森のような空間に変わりつつある。芸術で患者を癒やそうという「ホスピタルアート」と呼ばれるもの。同センターが和歌山大学教育学部美術専攻の学生の手を借りて取り組んでいる。同センターの小児科部長、吉田晃さん(55)は「入院生活を感じさせず、優しさを感じられる環境を目指している。スタッフの表情もいよやかに変わった」と話している。

日赤和歌山医療センター

小児病棟には現在、約40人の子どものが入院している。昨年10月ごろ、同センター関係者の話し合

生にイラストの協力を求めることに決めた。

いで、殺風景な小児病棟にホスピタルアートを施す案が持ち上がった。他府県の病院を視察しながら構想を練り、地域との連携を図るため、同大の学

こり顔を出し、子どもたちを招き入れるイラストを施す予定。吉田さんは「処置室は、子どもにとって痛くて嫌な場

ろから活動を復活させるという。

3月上旬から中旬にかけて学生らが描き始め、一部完成した市立西脇小学校4年生の野嶋千広君(10)は「動物探す所。少しでも気持ちいいアート教室」も開

「アートの教室」も開く面白い」とこり。学生は夏ごろ。